
月の人

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の人

【NNコード】

N9747A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

狂氣は空から舞い降りて、月を背にして連鎖する。その様を僕は語る。

(前書き)

これは九月の企画小説です。テーマは「月」で、他の先生の素晴らしい作品はキーワード「月小説」で検索できます。

本当はこぐら、こんな事を書いたところで意味はないのだけど、在るものを見るように書くというのが僕の主義な訳で…。

メアリ・ノートンが、週末に男とドライブに行つた事から物語は始まる。

男というのは、医者の息子で数々の恋愛歴を持つノア・ロビンソンの事である。

賢明な読者の事だから、ノアがどのようなやり方でメアリをドライブに誘つたのかは簡単に予想がつくだろう。

プレイボーイがプレイボーイ足る所以は、その口の巧さと、絶妙なタイミングを掴む能力の高さにある。

とにかくそのよつとして、彼の黒いベンツは走り出したのだった。

週末の道路は、少し混んでいてこんな日には、洒落こんで郊外にまで足を伸ばしたいと思う人も多い。

さりとて、ノアも例外ではなくセオリーを守る男だったので、季節はずれの海岸を通つて、都市部からそつ遠くない静かな田舎で休日を過ごそうと考えていた。

車がレイントンの小高い丘に差し掛かると、キンモクセイの香りが

風に乗つて流れてきた。

「なんて、良い香りなんだろ。」

ノアが囁く。

「あたしキンモクセイの香りって好きじゃないのよ。なんか、馬鹿に丁寧な癖にしつこいやールスマントーみたいじゃない?」

メアリも囁くながら、窓を開け放していく。

「やうかもね、君の匂いとまことに正しく。」

ノアも囁く。

それつきり会話は弾はずみ、エンジンの駆動音とラジオのジャズだけが流れていた。

道路の混み具合にも、それほどでもなく、スムーズに行くことができた。

やがて海岸通りの緩やかな曲線カーブを通る頃には、燃えるような深紅の夕日がくつ毛りと輪郭をなすように海を赤く染めていた。

「メアリ、見てみなよ。美しい夕日が沈んでいくよ。」

ノアが囁く。

「ええ、お口様は毎日沈んでいるわ。あたし達がそれを観測しているか否かに関わらずに……。」

メアリは、チラシと夕日を見ると、もつ興味はないとしても囁つゝに前を向いたり、時々溜め息を吐いたりしていた。

ノアも、もう何も言わずにメアリに任せたままに口を開じていた。

潮風が鼻孔を刺激して、ヒクヒクとするのを我慢しながらノアは、人の居なくなつた秋の海岸に車を停めた。

ノアはシートを軽く倒して、肩に入っていた力を抜いて伸びをした。メアリは、しつかりとした姿勢を崩さずに、持ってきたバックを膝の上に丁寧に置いて、その上に手を重ねていた。

「ねえ、ノア。私の事を少し変わつていいと思つ?」

少し間が空いて。

「いや、やうかなあ。」

「嘘は黙田よ、こうこう事はお互いに正直に話をしましょ。」

「うん。でも僕は本当に何とも思つてこないよ。」

ノアが囁つ。

「あたしが、こんな風に少し感覚がオカシイのは、あなたのせいじゃないのよ」

メアリはまゆりくつとした口調で言った。

「あたしが、男の人とこむと緊張するのは叔父のせいなのよ。」

「おじさんが…どうかしたのかい？」

ノアは、親身になつて話を聞くような素振りで体を上げた。

「結局は、肉体的なことよりも精神的なことでは私は心底、疲労しきつているの。」

「へえ、それはどうして？」

「叔父は毎日。もう毎日、月について話をするの。
太陽はとっくに沈んでいた。」

「叔父は、自分が月に住んでいた頃の話をするの。それだけじゃないわ、月に残してきた女にあたしがそつくりだつて言ひのよ。」

「それは…また…。」

ノアは少し潮風に当たりたいと思い、窓を開けた。

「なんの冗談だろうと最初は思っていた。けれど、叔父の吐く息や、体に触れる手つきや、月にいた頃の話なんかを、毎日。毎日なのよ。聴かされている…。本当に、月にはあたしにそつくりの女が居て、叔父の手の中で声を殺している姿が浮かんでくるのよ。」

ノアは、最近止めていた煙草に火をつけた。

すっかり海は闇に包まれて、何も見えなくなっていた。月は雲の中だ。

ノアは、体を強くメアリの体に押さえ付けて、言った。

「君が…君が悪いんだよ。」

そして、静かにメアリのシートを倒した。

パン。……パン。

低く銃声が一発轟いた。

一つはメアリがバックから出した小型拳銃で、弾丸はノアの頭を貫通していた。

もう一つは、トランクの中でジャレン・ノートンが自分のこめかみに撃つた拳銃だ。

波が静かに揺れていって、月が雲から姿を現した。

僕は今さつき、この話をメアリの部屋で聞かされた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9747a/>

月の人

2010年10月24日04時04分発行